
早期臨床実習を終えて

いつもと違う早期臨床実習にて

歯学科1年 井上 嘉

今年度の早期臨床実習は例年とは異なるものでした。昨今の新型コロナウイルス流行のため、自宅での課題学習とZoomでのオンライン実習となってしまいました。「もしかすると」とは思っていたのですが、やはり医療現場を間近で見学できなかったことには少し残念でなりません。しかし、その中でも例年にはない学びや発見があったと私は考えています。

自宅での課題学習は「全国の歯学部にある専門診療科とそれぞれの歯科領域を調べる」というものでした。この学習で私は歯科の知識量の多さと治療領域の広さに驚かされました。恥ずかしながら、私は歯科医師というと町の歯医者さんのような虫歯の治療や矯正が主な仕事であると考えていました。しかしインターネットで学習を進めていくと、まず診療科の多さに驚かされました。小児歯科や審美歯科、口腔外科など幅広い分野に対応

し人々の口の健康を支えていることに気づかされました。またそれと同時に残りの5年でしっかりと歯科の様々な知識を身に付けなければならないと気を引き締める機会となりました。

Zoomによるオンライン実習では、先生方のビデオ撮影によって病院内の様子を見学することができ、そこでいくつかの工夫に目が留まりました。小児歯科のユニットでは壁にキャラクターのイラストを貼り付けて明るい雰囲気を作ったり、緊張する患者さんのための個室が備えられていました。このような患者さんの目線に立った配慮に私は感銘を受け、今後ますます重要になると改めて感じました。

早期臨床実習は歯科医師となる第一歩であり、歯科医師としての喜びや責任の重さ、人として大切な相手への配慮の重要性を気づかせてくれるものでした。勉学はもちろん部活動にも懸命に取り組み、よりよい歯科医師となるため、そして将来社会に出る者として自分をより成長させるためにこの新潟大学歯学部で過ごす6年間を実りあるものにしていきたいと考えています。

早期臨床実習を終えて

歯学科3年 渡邊琢巳

私たち3年生は、前期に早期臨床実習Ⅱを行いました。これは、1年生の時に行われた早期臨床実習Ⅰとは異なり、より専門的になり、基礎科目と臨床科目との関連が意識された実習でした。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響により、例年とは異なり、病院での実習を行うことができませんでした。そのため、Zoomによる基礎科目の非対面式授業と各診療科でのローテーション実習を行いました。ここでは、私が早期臨床実習Ⅱを終えて、感じたことや学んだこと、基礎科目と臨床との関連を感じた点について述べたいと思います。

まず、基礎科目と臨床との関連を特に感じたのは、歯周病科で実習を行った際でした。歯周病科での実習内容としては、主に模型実習において手用スケーラーによるスケーリングを体験しました。ここで私は今まで学んできた生理学、微生物学、生化学などさまざまな基礎科目との関連を感じました。例えば、生理学との関連として、嘔吐の誘発機序が関係していると感じました。嘔吐を誘発する原因の一つとして、舌後方・咽頭部への触・圧刺激があります。これは、舌後方や咽頭にある機械受容器が刺激されることで舌咽神経、迷走神経、交感神経の求心路を介して嘔吐中枢が刺激され、嘔吐を誘発するという機序であり、臨床においてはスケーラーなどを使って歯石を除去する際に、誤って舌後方や咽頭部を刺激しないように治療を行う必要があると感じました。また、早期臨床実習Ⅱを通して、学んだことや感じたこと

として、治療を行う際は患者さんの目線にたち、安全を第一に考えることが重要だということが挙げられます。このことは、予防歯科での実習の際に特に痛感し、自分が思っていた以上に難しく、診療の際に注意すべき点が非常に多くあると感じました。例えば、探針を使う際は、先端が鋭利なため取扱いに注意する必要があり、特に口の中に入れるときに唇や頬に引っ掛けないように気を付けなければいけないと感じました。また、ユニットを倒す時などは唐突にユニットを倒してしまうと腰が悪い患者さんなどが大変な思いをするので、倒す前に声かけをしてからユニットを倒すことが大切であると学びました。さらに、フロスなどを行う際にも押し付けるのではなく、前後に動かして歯間に入れることで患者さんが痛い思いをするのを避けることが重要であると感じました。また、その他に気を付けなければいけないこととして、患者さんにできるだけ安心してもらえるような声かけが重要だと学びました。これは、歯科治療を受けに来る患者さんの多くは不安な気持ちで来る人が多いと思うので、少しでもその不安な気持ちを和らげてもらえるように声かけをすることで、その場の空気も良くなり、患者さんだけでなく、自分にとってもプラスにつながると学びました。

早期臨床実習Ⅱを通して、ここで書いたこと以外にも非常に多くことを学び、感じました。また、その上で基礎科目と臨床との多くの関連を感じ、それぞれを別々に考えるのではなく、常に関連づけて考えることが大切だと学びました。自分の目指す歯科医師になるまでの道のりはまだまだ長いですが、これから臨床を行う立場を意識しつつ、日々精進して、学び続けていきたいと思えます。

早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科1年 兼田真那

私たち歯学部1年生は前期の毎週金曜日1、2限に早期臨床実習を行いました。今年は新型コロナウイルスの流行によって多くの授業がオンラインでの開講となりました。例年であれば実際に病院に行って見学、実習を行うはずだった早期臨床実習も残念ながらオンラインでの授業となってしまいました。実際に見学することはできませんでしたが、想像力を働かせて先生方の話を聞き、集中して授業に臨みました。

私はこの早期臨床実習で大きく分けて2つのことを学びました。1つは広範囲に及ぶ歯科診療領域と聞きなれない専門外来です。歯、歯茎、舌など口の中を診療するのはもちろんのこと、唇や顎骨まで診療することを初めて知りました。また、いびき外来や口臭外来といった聞きなじみのない

専門外来があることが分かりました。こういったことを把握できたのは大きな1歩だと思いました。もう1つは患者さんのことをよく考えているということです。患者さんに快適に治療を受けてもらえるように必要であれば麻酔や笑気ガスを用いるなど工夫していることが分かりました。ただ単に治療するのではなく、患者さんに合わせて治療方法を変えることを大事にされていたのが、とても印象に残っています。

1年生のうちにこのような本格的な実習を経験できたのはありがたいことだと思いました。病院の雰囲気、特色、それぞれの専門領域についてわかりやすく教えてくださった先生方、本当にありがとうございました。医療従事者になるということを感じさせられるとともに、これから学習していく糧にもなりました。学年が上がるにつれてより内容の濃い実習が増えていくと思うので、そこで先輩や先生方から多くのことを吸収できるように頑張ります。



早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 富 樫 奈 央

今年度の早期臨床実習は、新型コロナウイルスの流行に伴い、例年と異なりZoomでの講義が行われました。実際に現場へ行き実習を行えなかったのはとても残念ですが、講義を通して、歯科衛生士や社会福祉士が活躍する現場についての理解を深めることができ、有意義な時間となりました。

始めに、前半の授業では、それぞれの現場ごとの歯科衛生士・社会福祉士の仕事内容について聞き、同じ職業でも現場が異なれば役割や働き方が大きく変わるということが分かりました。まず、新潟市保健所の地域健康福祉センターでは、1歳6か月児健診や3歳児健診の流れについて学びました。そこでの歯科衛生士の主な業務は歯科医師の補助や保健指導であり、齲蝕予防の重要性について伝えることも重要であるということが分かりました。また、見せていただいた写真の中に待ち時間に遊ぶ親子の様子を見守る職員の方が写って

おり、親子関係の把握のために重要なことなのだと聞き驚きました。ばんだい桜園についての講義では、社会福祉士の業務内容について学び、入居者だけでなく、その家族のサポートも役割の一つであることが分かりました。

他にも、授業の後半では、バイタルサインの測定や診療ユニットの使用法など、より実践的な内容を学ぶことができました。特に、将来自分が働く中で、緊急時の対応を冷静に行うためにも、正しい対処法や知識を身に付けておくべきだと感じました。また、診療ユニットについて学んだことは後期の相互実習にも役立てることができ、より円滑に実習を行うことができました。

この授業を通して、それぞれの現場での自分の役割を理解し、患者さんやその家族の気持ちを尊重しながら健康的な生活をサポートしていくことの重要性を学ぶことができました。この先もコロナウイルスの影響で学外での実習が制限される状況が続くかもしれませんが、貴重な学びの時間を最大限活用し、自ら学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思います。

